

# 研究会レポート

## リージョナルステート研究会 (社)日本技術士会北海道支部/ 北海道技術士センター

### 研究会活動は楽しく、そして刺激的に

リージョナルステート研究会活動は、活動の中心を分科会において運営を当事者に任せて、現場に入って具体的に実行をすると共に、全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大、レベルアップのために、全体行事の開催、他の分科会の案内、全体の情報交換会を開催して交流することを図っています。

今年度新規に設置しました地域主権分科会は、行政関係の技術士が多く入った新たなメンバー18名(9月現在)でスタートしています。地方において進められている地方分権、権限委譲、人口減少、地域経済の脆弱さ、市町村合併など動向を踏まえつつ、これからの北海道づくりやまちづくりについて、北海道や市町村はどうすべきなのか、社会資本整備はどうあるべきなのか、膨大な事務の委譲・移譲によって技術管理は大丈夫なのかなど、我々技術士が提案・提言・行動できることを明確にしようとしています。

当該研究会は設置して5年半になります。研究会活動を惰性でやってはいけないと思います。やはり皆さんが集まって、勉強になり、楽しく、刺激的でなければ成らないと思います。そのためには時代の流れの半歩先を考えること、同志を作ること、具体的に行動すること、だと考えます。

今年も後半分、とにかくやれることからやってみましょう。

(文責：研究会会長 市村 一志)

### 自然科学教育分科会

平成17年度前半の活動内容について、ご報告いたします。今年度は、これまで分科会3回、教育サポート4件を行いました。主な教育サポートの内容は次のとおりです。

#### ① 三里塚小学校

川をフィールドとした4年生の総合学習にて、生息している魚、虫、水生昆虫、植物、水質等の採取・観察・測定に関するサポートを行いました。子供達から楽しかったという多くのお礼をいただきました。

#### ② 月寒川にぎわい川まつり

白石区土木センター主催の川まつりにて、水車発電の実験、重曹を洗剤代わりに使用したナベの焦げ落とし実演を行いました。主催者からは、今後も環境をテーマとしたイベントへ、アドバイザーとして参画することを期待されております。

#### ③ 寿都町サバイバルキャンプ

寿都町が主催する自然体験サバイバルキャンプにて、小・中学生を対象に、当分科会で出来る様々なサポートメニューを2日間にわたり実施しました。既に3年目となり、定番化した活動になりました。

#### ④ キタヒロ昆虫隊

これは、小学生を対象に野外学習を行っている団体であり、当分科会は10月下旬に学習サポートをする予定です。現在は、これに向けて新たなサポートメニューを試行しているところです。内容については次回に報告いたします。

当分科会は、地道な宣伝活動により、多くの技術士補の方々が参加しており、老若男女が和気あいあいの雰囲気の中で活動しております。自分たちも楽しむことはもちろん、「私たちの夢は、教育サポートした子供達と技術士合格祝賀会で再開する事である」が会員共通のモチベーションとなり、学校や地域への貢献に日々励んでおります。

(文責：分科会副幹事 細川 康司)

## 観光分科会

### 1. 8月の観光分科会勉強会

話題提供者：成田一憲氏（北海道経済部観光のくにつくり推進室長）

日時：平成17年8月5日(金) 18:15~20:00

場所：札幌市男女共同参画センター

北海道は、観光施策に関する庁内の連携を強め、一元的施策を推進する、「観光のくにつくり推進室」を設置しました。

成田室長には、北海道観光の近況や「観光のくにつくりに向けた施策の展開」についてご報告頂きました。また、1987~1990年オタワのカナダ大使館勤務の経験から、カナダとの比較、北海道観光の課題を語っていただきました。

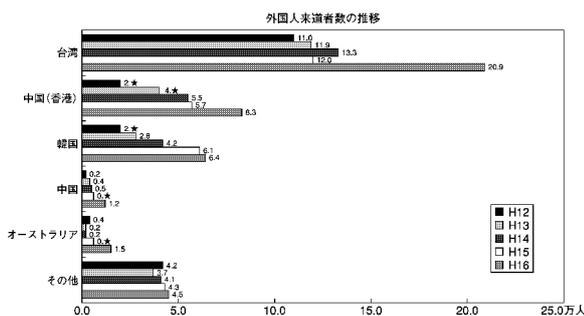
#### ① 依然人気の高い北海道

財団法人交通公社のH16年度全国調査では観光30部門で、北海道はトップの1位が8、5位までが5、計13の観光部門で行きたい旅行先になっている。また、全体でも1位となっている。

北海道が1位の観光部門	2~5位までにランクされている観光部門
自然観光、グルメ、おしゃべり、スキー、花、釣り、ゴルフ、オートキャンプ	温泉、リゾートホテル、自然現象観測、登山、エコツアー

#### ② 目立つ海外観光客の伸び

H11年度~16年度の観光客は、道内客、道外客、宿泊延べ数とも減少している。その中で、外国人観光客が順調に推移し、特に、台湾・香港・韓国・オーストラリアなどの伸びが目立つ。



#### ③ カナダとの比較から

カナダ滞在中に、各地をレンタカーで旅行したが、どこでも郊外に廉価(50ドル程度)で、質の高いモーターがあり非常に便利であった。

北海道観光も、団体から小集団のリピーター、レンタカー利用者が増加している。

ドライバーが安心して利用できる大規模でなくとも一定水準の宿泊施設ネットワークが望まれる。ホテルの格付けや民宿・旅館などリノベーション融資充実なども必要ではないか。

### 2. 分科会への会員募集

観光分科会の活動に参加希望のかたは、会合の案内を差し上げますので、以下にメールでお知らせください。次回は、「ニセコに行こう」を予定しています。

連絡先：宮武座長 miyatake@readjust.co.jp

(文責：分科会幹事 日浅 陽富)

## 循環技術システム研究分科会

### 1. 最近の活動

環境・循環・エネルギー等のキーワードのもとに毎回、メンバーの専門分野から貴重な提言をいただいています。最近の勉強会は下記のテーマで開催しました。

#### ① 別海バイオガスプラント報告

北海道における共同利用型バイオガスプラントの課題と展望を実施者の立場からの経過と、経済的な効果検証を含めて語っていただきました。

#### ② 京極揚水発電所・バイオガス発電見学会

北海道で初めての純揚水式発電所を詳細に視察すると共に、現場宿舎に設置された生ゴミバイオガス化発電施設(通称メタクレス)を見学しました。

#### ③ サハリン赴任報告

コンサルタンツ第105号にも掲載されていますが、現サハリンの生の姿を生で語っていただきました。現地の様々な情報が提供されています。

#### ④ ホタテ貝殻の有効利用

ホタテ貝殻による中和作用、重金属濃度の低減効果確認実験の説明を受けました。



### ⑤ 新エネルギー利用の導入支援（海外の事例等紹介）

スウェーデン、デンマーク、ドイツを例に取り、バイオガスプラントを初めとする新エネルギー導入を支える社会システムについて研鑽を深めています。

### 2. 今後の活動予定

今後も循環をテーマにお互いの研鑽を深めていく予定です。新メンバーも増えていますので、興味がある方はぜひおいで下さい。

（文責：分科会事務局 外 朝彦）

## 地域主権分科会

### 1. はじめに

リージョナルステート研究会は、設立以来6年目を迎えますが、17年度から新しく私どもの「地域主権分科会」が設立されることになりました。この分科会は、地方において進められている地方分権、権限委譲、人口減少、市町村合併、ぜい弱な地域経済等私たちを取り巻く社会経済情勢を踏まえつつ、これからの北海道のまちづくり、地域づくりのあり方、市町村のあり方、社会資本整備のあり方などを、メンバーが協働で検討・研究し、技術士として、社会に提案・提言し、情報の発信と行動をすることを目的としています。

私たちの活動は、今、始まったばかりですが、今後積極的に研究会活動を行って行こうと考えています。技術士センターの皆様の暖かいご支援、ご協力

をお願いいたします。なお、私たちの分科会は常に、開かれた会としておりますので、いつでも参加が可能です。

### 2. 17年度の活動計画

私たち「地域主権分科会」の17年度の活動計画は、年間4～5回程度の研究会の開催を計画していますが、今後研究会の議論の中で、開催回数、テーマ等を検討していく予定です。

### 3. 研究会の活動メンバー

私たちの研究会のメンバーは、現在20人で、構成員の所属は官公庁、コンサルタント、メーカーなど多岐に亘っています。また、技術士の登録部門は建設部門を中心に、上下水道部門、農業部門、環境部門等から構成されています。

### 4. 研究会の活動報告

私たちは、第1回目の研究会を平成17年6月21日に開催しました。以下、簡単に報告いたします。当日は、まず、須藤座長より当研究会設立の趣意説明がありました。次に、今回始めて顔合わせを行ったことから、参加者の自己紹介を行いました。自己紹介は、参加者全員が一人2分程度で行い、氏名、専門分野、当分科会への参加動機等を簡潔に発表し、その後でフリーディスカッションへと移りました。その意見ですが、活発なディスカッションがなされたため、とても全てはご紹介できませんので、具体的内容はHPでご参照下さい。

フリーディスカッションの中で役割分担の話となり、参加者の皆さんからの積極的な申し出により、当分科会の座長が須藤靖彦さん、幹事長が荒精一さん、コンサルタンツ北海道への投稿原稿の執筆並びに北海道技術士センターHPへの掲載担当幹事が中田光治さん、会計担当幹事が宮川英二さんの担当となりました。また、次回の研究会までの間は電子メールを活用して、市町村合併や地域主権に関する情報交換を行い、これらに関する認識や知識を深めていくことが確認されました。

（文責：分科会幹事 中田 光治）